

令和5年度 第1回東淀川区教育行政連絡会（中学校）議事要旨

1 日 時 令和5年7月11日（火）10時00分～10時55分

2 場 所 東淀川区役所 4階 401会議室

3 出席者

（1）中学校：淡路中学校長、柴島中学校長、瑞光中学校長、中島中学校長、
井高野中学校長、東淀中学校長、新東淀中学校長、大桐中学校長

（2）区役所：東淀川区長兼区担当教育次長、副区長兼区教育担当部長、
子育て企画担当課長兼区教育担当課長、窓口サービス課長、保健福祉課長、
教育担当課長代理兼教育政策課区教育担当課長代理、
保健福祉課担当係長兼教育政策課担当係長

4 議 題

（1）校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）について

- ・事業実施経過について

区役所の配付資料をもとに説明を行った。

- ・令和5年度の取り組みについて

区役所の配付資料をもとに説明を行った。

- ・令和6年度の取り組みについて

区役所の配付資料をもとに説明を行った。

- ・民間事業者を活用した課外学習事業（こぶしのみのり塾）について

区役所の配付資料をもとに説明を行った。

主な意見交換の内容は次のとおり。

（東淀中学校長）

民間事業者を活用した課外学習事業でのアンケートの取り方について、「学校外では1週間で何日勉強していますか？」という質問の仕方を変えた方がよい。学校の中でやっているこぶしのみのり塾に通っている生徒への質問であるため、「学校の授業外で」という書き

方でないと、学校の中でやっているこぶしのみのり塾に行って勉強ができているために「しない」という回答が増えたという読み取りもできる。まったくの自学自習をしたかという観点で言えば、この質問の仕方で良いかもしれないが、こぶしのみのり塾に行くことで授業外での勉強時間が増えているのかという観点では、質問の仕方を変えた方がよい。

(区役所：東淀川区長)

おっしゃる通りで、こぶしのみのり塾は学校の中でやっているのので、質問に対して「学校内」ととらえている生徒が結構いると思う。質問の仕方を変えた方がいいと思う。

(淡路中学校長)

問7・8の回答は中学校3年生の所属率で結果が変わると思う。中学校3年生になると意識も変わり、勉強時間も増えるのは当たり前である。そのため、中学校3年生の所属率でデータも変わるのでは。その辺りも踏まえてデータの考察をしていかないといけないのでは。

(区役所：保健福祉課担当係長)

おっしゃる通りで、学年によって変わってくると思うので、事業者と相談しながら数字の取り方を検討していきたい。

(瑞光中学校長)

どの事業も学校の課題に応じた必要な事業である。一方、本校だけの問題ではないかと思うが、本校は不登校の割合が非常に高く、せっかくゲストティーチャーに来ていただいても、登校できておらず授業を受けることができている生徒も多数いる。外部の関係機関等へ繋げる等しているものの、やはり不登校の生徒が少しでも学校に来てくれるよう、魅力を上げていかないと感じている。城東区では「スクールサポートルーム」という不登校支援の取り組みがあり、学校内の部屋の居心地のよい空間作りをしている。教育支援センターにおいても、不登校の子ども達が来やすくなるような居心地の良い部屋づくりがされている。

区の予算の中での執行では難しい部分はあるかと思うが、せっかくのゲストティーチャー派遣事業の授業も受けることができている子供たちがいるため、少しでも学校に足を運ぶきっかけになるような不登校支援策を検討してもらえれば。

(区役所：子育て企画担当課長)

城東区の不登校支援については、学校には来ることができるが教室には入りづらいとい

子どもたちへの学校内の居場所づくりにおいて、学校によって様々な事例がある。子どもたちが居心地よく過ごせるための場所を目指して居場所づくりをしている学校や、あまり予算をかけず習熟度別のスペースを学校に増やしていく学校もあり、予算のかけ具合も様々である。城東区では当時予算が確保できる状況だったので、前に進めやすかったという事情もある。今の東淀川区では大きな予算をかけるというのは正直難しいが、区役所の横のつながり等で情報収集を行い、予算以外の面で支援できることがあろうかと思う。ある程度、学校の方での構想が固まればご相談いただけたらと思う。

(柴島中学校長)

昨年度、本校でのゲストティーチャー派遣事業(いのちと性)の授業実施後に、ある生徒が授業の内容について疑問を持ち、その生徒の保護者からも内容について指摘があった。実際に授業に参加した教師からも言葉や内容に少し違和感があったと聞き取っている。今の子どもたちは言葉の捉え方が様々であると思う。そういった中で性教育というのは丁寧な指導が必要であるということをととても感じた。

本校は令和5年度もゲストティーチャー派遣事業(いのちと性)を希望していたが、今回の件を受け、性教育の進め方・考え方等、カリキュラムに関して学校独自でもう一度検討を重ねて実施していこうと考えており、今回の派遣授業は見送る方向で考えている。

当該事業は平成26年からスタートして10年となる。10年前と社会や子供たちの状況も大きく変わっている。毎年度事業を実施している中で検討はされているとは思いますが、今一度、性教育に対してフラットな状態で次年度以降の事業実施を検討していただけたらと思う。

(区役所：保健福祉課長)

当該の案件について、この場では詳細な説明はできないが、一部の保護者の方からご意見をいただいております。今現在もまだやりとりをしているところでまだ折り合いがつかないような状況である。

事業の説明を今一度させていただくと、区としては自尊感情の向上や、望ましい性行動の理解といった趣旨目的で実施をしており、それを実現できる事業者を選定し、事業を実施している。

授業の実施前後に授業を受けた児童・生徒や教師にアンケートを実施し、その内容の報告を事業者の方から区役所へ受けているが、アンケートの方はおおむね肯定的な意見で、

区役所としては事業の趣旨目的を達成している授業が実施されていると認識をしているので、安心して授業を受けていただきたい。

一方で、今校長先生の方からご意見があったように、時代の変化は激しく、子どもたちの状況も刻々と変化しているため、今提供する授業内容が子どもたちにふさわしいかどうかという検証を行う必要はあると感じている。

いのちと性は大変デリケートなテーマであり、授業を聞いた際の受け止め方はいろいろあると思う。今回、5年度の仕様書には、「教育を受ける方の様々な家庭環境を想定し、自尊感情を損なうことがないように、教育内容には十分配慮すること」という1文を追加した。

また今後も、よりよい事業となるよう、先生や生徒のご意見をお聞きしながら、事業者と連携していきたいと思っており、必要に応じて、契約内容や選定方法なども見直していきたいと思っている。

(2) 就学について

- ・東淀川区における学校選択制について

区役所の配付資料をもとに説明を行った。

主な意見交換の内容は次のとおり。

(東淀中学校長)

数年前、当時校区外の小学校に通っていた特別支援学級の児童が、その小学校の接続校である本校への入学を想定していたが、区・教育委員会・学校・保護者間での認識に齟齬があり、当該児童が本校に入学できなかった事例があった。

小学校からは配慮を要する子どもたちがいるという情報は来るが、住所まではなかなか把握しきれない。校区外の小学校に通っている特別支援学級の児童については、その接続校の中学校を第一希望としている場合、学校の方に一度問い合わせをしていただけないか。

特別支援の児童については、保護者の思いや、子どもと一緒にやっていきたいという気持ちがある中で、その児童が入学してくるものとして教育委員会と話がついており、その上での受け入れ人数を報告している可能性がある。そういった配慮を区役所にもしていただければ。

(区役所：窓口サービス課長)

最終的な受け入れ人数や調整は教育委員会の方になるかと思うので、教育委員会とも1度話してみる。

(3) その他

- ・ブロック化による学校支援事業（第1ブロック）について
区役所の配付資料をもとに情報提供を行った。
- ・高校等進学説明会について
区役所の配付資料をもとに情報提供を行った。

その他、主な意見交換の内容は次のとおり

(区役所：保健福祉課担当係長)

ゲストティーチャー派遣事業（情報モラル）の一環で、夏休み動画制作講座を実施するにあたり、チラシの配架についてご協力いただいたが、現時点で申し込みが無いため、興味がありそうな生徒さんがいればお声がけいただければありがたい。

(東淀中学校長)

高校等進学説明会のことについて追加説明をしたい。

チラシを終業式には全生徒に、始業式では3年生に対してもう一度データもしくは紙で配っていただき、説明会を迎えたい。

将来に繋げるためという目的で、東淀川区の子たちに進路について考えてほしいという、区のPTAの考え方ですので、ご賛同いただいてしていただければと思う。